think transplant vol.53

臓器提供ご家族の手記

臓器移植に関するご質問・お問い合わせ先

JOT いのち、つなぐ。
公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク
0120-78-1069（平日 9:00～17:30）
https://www.jotnw.or.jp 臓器移植 検索

私は世界一可愛い、
そして世界一優しい娘
くーちゃんの父親です。

2026.04

私は世界一可愛い、そして世界一優しい娘くーちゃんの父親です。くーちゃんが生まれた日の喜びは言葉では表現しきれず、決して忘れることはないでしょう。妻を母にし、私を父にしてくれたくーちゃんは、5歳のときにインフルエンザ脳症に罹患し、約1ヵ月の闘病の末に脳死とされうる状態になりました。目を背けたくなるような現実を前に、私たちはくーちゃんの臓器を提供するという、人生で最もつらく、大きな決断をしたのです。

命が助からなかった場合には臓器提供を考えるべきではないか、そう家族に切り出したのは私でした。つまりくーちゃんの救命を最初に諦めたのは父である私だったのです。妻、そして妻と私の母は当初は反対しました。希望を捨てず毎日くーちゃんに声をかけていた家族が、それでも最終的に臓器提供を承諾した理由は、元気な頃のくーちゃんを思い出し、「世界中の人のためになりたい」と語っていたくーちゃんなら、きっと誰かの命を救うことを望んだはずだと信じたからです。もちろん臓器提供の意思は確認していませんでした。ただたくさんのコミュニケーションをとっていたからこそ、そう思えたのです。大切な人とできる限り頻繁に話してください。それは誰もがいつかは直面せざるを得なくなる、大切な人との別れの際のチカラになり得ます。

私がくーちゃんを世界一可愛いと思えるのと同じように、皆さまにもきっとそれぞれに、世界一大切だと思える誰かがいることでしょう。その大事な人が世界からいなくなってしまうという想像したくもない未来を、それでも本気で考えてみていただきたいのです。臓器提供は、大切な人の命が失われることが避けられなくなった際に初めて生まれる選択肢です。よく命のリレーと表現されますが、私は命そのものがリレーだと考えています。私たち一人ひとりが、両親や祖父母から命のバトンを受け取って生まれてきた存在だからです。誰もが誰かからつながれた命を生きている。だからこそ自分の命を大切にし、他者の命にも思いを寄せていくことが肝要ではないでしょうか。

大事な人との別れは誰の人生にも起こり得ることで、病だけでなく、悲しい事件や事故が毎日のように起こり、子どもたちを含め、命が理不尽に失われている現実があります。「いってきます」と出かけた家族が無事に戻らないこともあるという事実を、私たちは知っておかねばなりません。臓器提供はいつ誰がどんな形で向き合わざるを得なくなるかわからない話なのです。どれだけ医療や科学が進歩しても、大切な人との別れをゼロにすることはできません。ただ、

移植医療は助からなかった誰かの命をつなげていくことが可能な選択肢なのです。

運転免許証やマイナンバーカードの裏面に臓器提供の意思表示欄がある理由は、誰もが当事者になり得るからこそです。記入することは重い決断に思えるかもしれませんが、もちろん記入しない自由もありますし、意思は何度でも変更できます。大切なのは、意思表示の内容について家族と話し合っておくことだと思っています。いざというとき、冷静に考える時間や余裕はないからです。元気だった頃にくーちゃんはよく「パパ、人それぞれだから」と言っていました。あなた自身とご家族にとって、もしもの際の最善の選択肢は何であるのか、そんな話し合いができること自体、実はとても幸せなことかもしれません。

くーちゃんが私に向かって発した最後の言葉は「マスク」でした。自分が非常に苦しかったに違いない状況の中でも、「パパにうつさないように」と自身よりも私を気づかってくれたのです。そんな優しさの塊のようなくーちゃんなら、命のリレーを応援してくれていると信じています。そして、リレーの途中で妻や私がいなくなったとしても、くーちゃんのことを覚えていてくれる人がいるという確信が、私たち家族に前を向いて生きていくチカラを与えてくれます。臓器提供は助からなかった誰かの尊い命を、命の危機にある別の誰かへつなぐ選択肢であると同時に、深い悲しみの中にいる家族の心を助ける手段にもなり得るのです。理不尽な「そのとき」を迎える前に、話し合い、考えておくことがとても重要だと、つらい経験をした者の一人として証言させていただきました。

個人的な悲しい出来事を伝えるためではなく、大切な人との別れや命、そして臓器提供について、大切な方と話し合うためのきっかけになればと願って、綴らせていただきました。耐えがたい別れに直面した際に、臓器提供という選択が一つの光になり得た家族が確かにいることを、知っておいていただければ幸いです。今、私たちはくーちゃんの臓器を提供したことを誇りに思っているのです。これを読んでくださったあなたと大切な誰かが、命について話す時間を持ってくださったら、臓器提供について話し合ってくださったら、少しだけ報われます。今でも我が家の太陽であり続けてくれている私の世界一可愛い娘くーちゃんも、きっとそれを喜んでくれると、そう確信しているのです。

世界一可愛い娘くーちゃん

知ってみよう！

臓器移植にまつわるお仕事

今回の職業 **救急医**

私は岡山大学病院高度救命救急センターで、小児救急科の診療科長を務めています。医師を志した原点は、小学2年生のときに経験した約1年間の入院生活です。不安な日々を支えてくれた医療者の存在が、今の私の根底にあります。小児科医として研鑽を積む中で「救えなかった命」への無力感に直面し、より重症な子どもたちを救いたいという一心で、救急医療の最前線へ進みました。

救急現場は、一分一秒が命の瀬戸際です。搬送されてくる子どもたちの人工呼吸管理や薬剤投与、検査、そして家族への説明を同時並行で進めながら、「今、何ができるか」を自問し続けます。しかし、あらゆる手を尽くしても、現代医学の力では救えない現実は確実に存在します。

その際、臓器提供という選択肢を提示することも、私たちの重要な役割のひとつです。臓器提供は本人が自らの意思で決められる、一人ひとりが持つ権利ですが、事前に意思表示があるケースは稀で、多くはご家族が短時間で重い決断を迫られます。私は単に意向を伺うのではなく、その子がどのように生き、何を大切にしてきたのかを共に辿り、「その子ならどう考えるか」を一緒に導き出すプロセスを大切にしています。

これまで接してきた範囲では、悩み抜いて提供を選んだご家族から「後悔している」という言葉を聞いたことはありません。一方で、提供しないという決断もまた、真剣に向き合った末の尊い選択です。臓器提供に唯一の正解はありません。だからこそ、残された家族が独りで迷い続けなくて済むように、元気なうちに互いの思いを伝え合っておくこと。その一言が、いつか訪れるかもしれない瞬間に、愛する人を支える確かな力になるのだと信じています。

もっと詳しく知りたい方は▶▶

今回お話を伺った方
岡山大学病院 小児救急科
診療科長
塚原 紘平先生

臓器提供の意思表示の方法

臓器を提供する。移植を受ける。私たちはどちらの立場にもなる可能性があるから、
一人ひとりが家族と話し、意思を表示することが大切です。

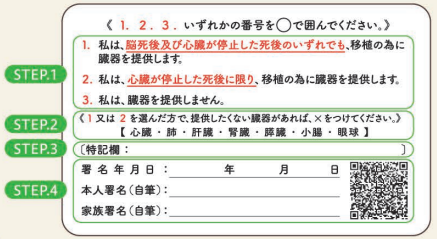
意思表示の方法

臓器提供の意思は、以下の4つで表示できます。

インターネットで意思を登録すると、IDの入ったカードが発行され、いつでも登録情報の変更や削除ができます。
https://www2.jotnw.or.jp

※健康保険証にも意思表示欄がありましたが、健康保険証の新規発行は終了しました。健康保険証の資格確認書にも意思表示欄がある場合があります。

意思表示欄の例（臓器提供意思表示カード）



STEP.1 意思の選択

自分の意思に合う番号にひとつだけ○をしてください。
どの意思も等しく尊重されます。

STEP.2 提供したくない臓器の選択

1.か2.に○をした方で、提供したくない臓器があれば、その臓器に×をつけてください。

脳死後に提供できる臓器

心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球

心臓が停止した死後に提供できる臓器

腎臓・膵臓・眼球

STEP.3 特記欄への記載について

皮膚、心臓弁、血管、骨などの組織も提供してもいい方は、その旨を記入できます。
親族優先提供の意思を表示したい方は、ホームページなどで詳細を確認の上、「親族優先」と記入してください。

STEP.4 署名など

本人の署名及び署名年月日を自筆で記入してください。
可能であれば、この意思表示欄に記入していることを知っている家族が、そのことの確認のために署名してください。